

協進レター64号

平成23年4月25日

この度の東日本大震災では、日本人が過去の経験から準備をしていたことの想像をはるかに超える被害が広範囲に及び、直接被災された方々の物心両面にわたる大きな傷は、察して余りあります。あらためて心よりお見舞い申し上げますと共に、1日でも早い復興への道筋が整い、皆様に笑顔が戻ることをお祈りしましょう。

63号でも紹介したように、日本及び世界各国でも、復興支援の輪が大きな広がりを見せています。特に日本人の素晴らしさを私は感じております。それは先人達が連綿と培ってきた尊き習慣が、今回のような事態にあって表現されているのではないのでしょうか。

現代では、お葬式や法要の時にくらいしか触れることがない仏教ですが、間違いなく根底には仏教の思想が刷り込まれています。仏教では、自分以外の他者への様々な施しを「布施」と言うのは皆知っているでしょう。

今日では、お坊さんにする謝礼を意味しているようにしかとらえられませんが、そもそもの「布施」は、「財施(ざいせ)」「法施(ほっせ)」「無畏施(むいせ)」の三つに分けられます。この辺のことは私より詳しい社員さんがいますが、「財施」は、金銭や被服等を施す意味。「法施」は、仏法を説いて他人の苦しみを取り除き、精神的に

支える事。「無畏施」は、畏れをなくしてあげることから転じて、自分の労力を使って他人を勇気づけて負担を軽減することを意味します。つまり国民みんな、今まさにやっていることです。義援金や義損金の提供に協力、物資や人の搬入は「財施」です。励ましの言葉やメッセージは「法施」に当たります。また、スポーツ選手や歌手などの有名人が活躍することで「無畏施」にもなっています。つまり「布施」とは、自分さえよければという我や執着から離れて、他者の為に自分のできることを精一杯する行為のことなのですが、いつの間にかみんなですっています。

今後の復興に際しては、息の長い5年・10年・15年と支援していかなければいけません。日本の政治・経済・社会活動が、早く本来のあるべき姿に変えることが求められます。それには不確かな風評や情報に惑わされることなく、我欲だけに囚われることなく、今、この瞬間に自分のなすべき事柄に精一杯の力を注ぐ気概が大切です。

私にできるその最たるものが『まず、協進交通を健全に経営する』です。それがいつも言う地域社会への貢献となり、日本の正常化につながり、被災地の復興への貢献にもつながると、信じて疑いなしです。

一方、「復旧」なのか「復興」なのかよくわからない活動が多いのも事実だと、私には気になります。

「復旧」とは、災害等で壊れたものを元に戻すことを言います。「復興」

とは、一般的に一度衰えたものが再び勢いを取り戻すことを意味します。

今回の大震災は、日本経済が低迷し続け、変わらなければダメだ！と多くの人が何となく感じていた時に、ドカンと来た大規模な自然災害です。俗に100年に一度の経済不況が来て立て直すのに大変だと、過去になかった政権交代まで起こしてジタバタしている時に、1,000年に一度の大災害になりました。いずれ歴史が語るようになるでしょうが、時代の変化を大きく進める災害と見るべきでしょう。一気に変化が進むものと判断しています。

しかし、変わるということは元の状態に戻るという事ではありません。これは過去の歴史が証明していますが、政治でも経済でも社会でも、元の状態に戻って「良かった、良かった」と、進化したことがあったのでしょうか？

繰り返しになりますが、「復興」とは「一度衰えたものが再び勢いを取り戻す事」を言います。「再生」とか「蘇生」という意味です。我が国の場合には元に戻しても、すでに世界的にみて一時の勢いは無くして閉塞感にさいなまれていたわけですから、全く違う形に変えていくことが求められます。

このことを私は、タクシー業界や協進交通に映し替えて考えています。タクシー事業が80年、協進交通が40年の歴史を発展してきました。勢いはもうありませんでした。まさか今度の震災までは予想していませんでしたが、変えなければいけない、変わらなけれ

ばいけないと言いつけてきました。これを機に「復興」「再生」「蘇生」を加速させていかなければいけないと、誓っています。

最後まで読んでいただきましてありがとうございます。今の私の思い、考えを示させていただきました。みんなの叡智と行動力を結集して、この難局を乗り越えてこそ、会社の復興だし、再生だし、蘇生です。それが業界の、さらにそれが日本の復興だし、再生だし、蘇生です。

<新しい仲間を紹介します>

梨本智之さん 東京で個人タクシー開業を目指していましたが、新規免許が認められなくなった今、地元にもどって、最後の転職先としてみんなの仲間になることを決意されました。

河田一彦さん やはり東京で乗務をしていましたが、最近の営業の難しさに嫌気がさし、タクシー乗務に見切りをつけようと考えているときに、会社のホームページを見て、もう一度頑張ってみる気になったそうです。

お二人とも夜勤務専従で乗務をお願いします。皆さん、よろしく願います。

<退職のおしらせ>

石田教氏さんが、健康上の理由で、4月15日の締め切りをもって退職されました。早く健康を取り戻して、ご活躍されますことを祈念いたします。ありがとうございました。